

# 愛川ボラ連だより

## 創立20周年記念号

第3号 平成21年5月発行  
愛川町ボランティア連絡協議会  
愛川町角田257番地の1  
(町社会福祉協議会内)  
☎ 046-285-2111



### 読みやすい文字を

拡大写本 しおさき  
中村 祥子



社協主催の「拡大写本講習会」第一回目が開催されたのは、平成十四年一月。講習会終了後に絵本の拡大写本から開始し、一番最初の利用者のお名前に因み「しおさき」というグループ名となり七年が経ちました。

弱視の小・中学生が、教科書の活字を判読し易いように拡大写本し、どのページを開いても「教科書体」という同じ書体になるように、各自の癖字を書かないようにと、毎回苦労しています。



1冊の教科書を拡大すると5~8冊になります



中学生の教科書  
基本は教科書体 10.5P→28P  
一人一人の生徒さんによって違うのでその人に合わせたオリジナルの拡大写本を作成しています。



### 思い出

個人ボランティアグループ  
代表 山田 郷子



個人ボランティアグループは「施設入浴サービス」のお手伝いをしていた「湯の花会」が母体です。

ボラ連に加入していた「湯の花会」が解散、脱退ではなく、個人のボランティアとして登録する個人ボランティアグループができました。

登録者は主に町事業の「一人暮らし老人昼食会」、特別養護老人ホームのデイサービス、愛川町身体障害者福祉協会の行事のお手伝いなどを行っています。

全員で同じことをすることがなかなかありませんが、ボラ連が主催、共催する事業には皆で参加・協力しています。特に「ふれあい広場」はゲームを通じて、障がいのある人もない人も、高齢者から幼児まで一緒に、楽しみふれあうことができ、これが一番のグループの親睦の場となってきました。

個人のボランティアは『できる時に、できる事を』の気持ちで活動しています。グループには79歳の方も

おり、仲間の手本となっています。今後も『お互いさま』の気持ちで活動していきたいと思っています。

### 編集後記

愛川町ボラ連が設立されて二十周年を迎えました。

設立当初から多くの先輩の方々の継続した努力が有つての事です。今号はボラ連を今日まで育てて戴いた方々、全加盟団体の皆さまにボランティアに対する思いを寄せて頂きました。

各団体の皆様が、各々独自の世界を持ち、活発に活動を展開され、その活動がボラ連として協力し合っている事をあらためて実感しました。

会報がボラ連の仲間を繋ぐ役割を担って行ければ幸いです。

編集者一同



### 愛川町ボラ連創立二十周年

## 継続は力なり

副会長 井上 桂

平成元年二月十九日、日曜日の午前十時より、愛川町福祉センターで愛川町ボランティア連絡協議会の設立総会が行われました。議長を仰せつかったのが私でした。その時の総会資料を見ると、次の九団体が設立に参画しています。

「あいかわあゆみ会」「手話サークル愛和会」「愛川レクリエーションクラブ」「かえでの会」「おはなしきやらばん」「点訳友の会」「四つ葉会」「マジック愛川クラブ」「湯の花会」。来賓には、相馬町長を始め、小野澤議長、県ボラセンターの鈴木参事、町社協の鴨下会長と周囲の期待も大きかったと思われまます。

その後の二十年間の活動を振り返ってみると、その中でも柱となっているのが、町社協と共催で実施している「ふれあい広場」と「ボランティアのつどい」です。設立時から継続している訳です。



ボランティアのつどい

から内容の変遷はあるものの、年々協力団体が増え、参加型で町民の皆さんが楽しく体験できる、参加者同志が交流できるような工夫をしてきました。そして、参加者の皆さんの笑顔や励ましに支えられて続けてきました。ボランティア活動は、できる人が、できる時に、できる事をする自主的な活動です。



平成6年ふれあい広場

また、活動の中で新たに知ることや体験できることもたくさんあり、まさに学習の場でもあります。しかし、個人で続けることはなかなか難しいのも現実です。仲間がいると活動を続けることがより楽しくなり、喜びも大きくなります。

町ボラ連の加盟団体は少しずつ変わってはいますが、時代の流れに即し充実したボランティア活動をめざして、企画する皆さんと参加してくださる皆さんが手を取り合って、これからも末永く活動していきたいと思っています。





# 創立二十周年を祝して

社会福祉法人愛川町社会福祉協議会長

橋本 利男

愛川町ボランティア連絡協議会が、創立二十周年を迎えるにあたり、心からお祝い申し上げます。貴協議会におかれましては、平成元年二月に設立されて以来、地域福祉の推進に多くの実績を上げられ、関係者のこれまでの御尽力に対しまして、心から敬意を表します。

さて、高齢化、少子化が進む中で、住民の皆様から福祉の充実に寄せる期待は大きく、安心して生活できる地域社会の実現は、住民皆様の願いです。しかし、福祉社会の実現には、行政施策の充実とともに私たち自身も地域で共に支えあうことがとても重要で、ボランティアの活躍がますます期待されます。



今後とも、貴協議会には、ボランティアのネットワーク化、情報交換を密にしながら、社会福祉協議会と手を携えて、ともに学び、支えあう、地域社会を目指していただければと思います。



# 愛川町ボラ連のあゆみ

ボラ連初代会長

熊坂 實

昭和六十年ころより、町で活動していた九グループの代表者が集まり、ボランティアの会をつくろうと話し合いを始めた。こうして、平成元年に、愛川町ボランティア連絡協議会が結成され、県ボラ連に加盟した。

町ボラ連の活動は県でも高く評価され、私は第三代会長ボラ連会長に推薦された。会長時代、全国ボランティアフェスティバル第九回徳島大会へ参加して研修を深め、第十回神奈川大会では本部役員を務めた。第十一回山梨大会では、町の好意によりマイクロスバスを借用して、二十名の会員が参加し、研修を深め有意義な大会となった。

町ボラ連を結成して八期十六年の間、会長としての職責は、町社会福祉協議会や会員の皆様のご理解あるご支援により、全うでき



た。私は喜寿を迎え、皆様に感謝しつつ退任した。また、皆様の活躍により、大勢の方々が県社協会長、町長、町社協会長より表彰された。このように町ボラ連の実績は、県社協でも高い評価を受けていると確信している。少子高齢化の進む現在、ボランティア活動が必要不可欠となっている。そして、ボランティア活動も全町民の参加が求められている。その中心となつて、益々活躍されることを期待し、町ボラ連のご発展をお祈りします。



# 今こそ相互理解を深める時

愛川国際交流クラブ

会長 佐藤 茂

愛川国際交流クラブは、平成九年、日本語教室を立ち上げ、さらに、お互いの国を理解し合う為に文化交流事業を進めてまいりました。

会員数四十数名ながら、主に運営してゆく日本人七、八名の中、教室と交流事業を両立させることには、厳しい面もいろいろありました。

しかしながらその中でもボラ連の加入団体の皆様の理解と協力を頂き、何とかここまで活動ができてきたかと、日頃より感じております。



現在、愛川町における外国籍住民は、約二千八百人、人口比率六・四%と県内でも在籍者が多い町となつています。そして現在の日本の経済状況、日本人にも外国籍住民にもその不況の波は押し寄せて来ています。この様な時こそ同じ住民として相互理解を深めて行かなければならないと思います。

今後愛川国際交流クラブとしては、日本語教室の運営、文化交流事業、又、愛川町住民の方々にも、幅広くご理解を頂くよう引き続き努力をして参りたいと考えております。今後とも宜しくお願い致します。



日本語教室 授業風景



# ボラ連の一員として

愛川シニアボランティアグループ あしボ

三澤 保彦

あしボは愛川町に数あるボランティアグループで唯一の男性だけのグループです。

我々にはボランティアの活動として、二つの大きなミッションがあると考えております。

一つは、我々を必要とされる方のニーズ対応力を付け、双方が満足感のある笑顔で、依頼事項を完了させる事。

もう一つは、この活動を通して我々もまた、楽しみと生きがいにつながることでなければ長続きはしないでしょう。

現役時代に培った何かがこれからのボラ連との連携活動に役に立てたいと考えております。

ボラ連に仲間入りする事で活動の輪が多様多様に広がり、参加できる喜びと達成感を感じます。

人生の達人である、お年寄りから、かつての日本の伝統を傾聴し、ふれあい広場や福祉のひろばなどを通して物を大切にすることや、



製作風景

# あしボ

有効に利用して遊びとする昔遊びなどは、子供たちや若者に広く伝えてゆく意義は大きいと思います。このことは、今風の電子ゲーム機に負けない新鮮さで受け入れられている事でも判ります。

我々の活動も人員、内容共に増強しボラ連と共にさらに成長し継続出来る事を願っております。





### 食会を愛して四十年余り

愛川町食生活改善推進団体 味彩会  
徳岡 公江



ボランティア団体味彩会の誕生まで市町村の代表者が厚木保健所食生活養成講座を学び、料理を地域に普及する為にあゆみ会に入会して、会のスローガンである、美味しく、楽しく健康にを合言葉に、公民館や町施設の広場で保健所のキッチンカーの中で料理を作り、お隣さん、お向かいさんと声を掛け合いながら地域の人達に健康食の普及をして参りました。

又、こんな事も致しました。一人暮らしのお年寄りに温かいお弁当を作り訪問したり、老人の集いには高齢者向きのお弁当を作り、一緒に昔話に花を咲かせた事もありました。そのあゆみ会も今年で五十周年を迎えようとしています。



母と子の料理教室

毎月一回一人暮らし老人給食サービスや、体の不自由な方のデイサービスのお手伝い、母と子の料理教室等も町の要請を受けながら活発に行っています。

これからの時代は益々多くのボランティアが必要とされます。ご期待に応えられる様一層の努力をしたいと思います。居ります。



### 人と人との温かいつながり

愛川レクリエーションクラブ  
根岸 真弓



愛川町健康まつり

愛川町ボラ連の発足と同時に、愛川レクリエーションクラブの会員と一緒に仲間になりました。そこで、町内でボランティア活動をしているグループの存在を知り、驚きと感動を覚えました。そして、早や二十年を迎えることに改めて時の流れを感じております。

活動の中で色々な体験をしました。八王子「有料ホーム」の素晴らしい設備に驚いたり、港町横浜の赤レンガ倉庫や人形の家を語り合いながら散策しました。多くの方々との親睦を深め、有意義な時間を持てたことは、良い思い出となり心の宝となりました。

また、他グループと交流し、体験談や活動の様子をお聞きする中で、命の尊さや奉仕の心、人々に対する優しい気持ちの大切さも再認識しました。お互いに、活動の問題点を話し合い、より良い活動につなげられたことは大きな喜びとなりました。



### 声のかけはしに

愛川町録音ボランティアグループ かえでの会  
別府 和子



福祉センター三階に録音室が完成したのが、平成元年一月、町ボラ連発足が二月でした。

「視覚障がい者に声の広報を届けよう」の趣旨でかえでの会を発足させたのが昭和五十六年。

当初の活動拠点は春日台児童館でした。収録の都度ミキサー、デッキ、アンプ等をセッとし、車や飛行機の騒音を気にしながらの録音作業も待望の録音室が完成してからは、作業もスムーズに、クリアーで聞きやすいテープに感激したものです。

「やつと愛川町民になれた気がする」との読者の声を励みに、次々と発行種類も増やし、平成二十年実績、十一種類八百二十八本の発行。



テープ読者の皆さんとの交流みかん狩り

人のためと思って始めた活動が自分のいきがいになっていくことを実感しています。発足当初の会員で残っているのは、私一人となり、継続してゆく責任とどこで区切りをと思う昨今です。



### ボランティア活動で忘れ得ぬ思い出

マジック愛川クラブ  
野澤 徹男

ある老人ホームのデイサービスの行事でマジックの演技中、客席正面の女性と目が合うと、手を振ってくれていました。気が散らないようにと演技して、無事終了しました。

あとから楽屋で係の方に聞くと、その女性は百一歳だそうで、更に驚いたことに車椅子が嫌い、会場にも歩いて来ているとのことでした。この元気さは、明治時代の厳しい生活環境の中で得た健康管理の賜だろうと感じました。また、その女性は八十歳になってから人の輪に入るようになり、明るい性格になったとの話でした。

長寿の方に長生きの秘訣は何かとたずねるテレビ番組をよく見ますが、特別な秘訣は無いようです。自分の信念を持ちそれを実行する。あるいは、老いても大勢の中に入り情熱と知恵を得る生活等が、老化防止になっていることを改めて教わります。



懇親会 (平成14年度)